

モーツアルト盤を聴く (38) (HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(38)—

1. 始めに

前報(37)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノソナタの曲です。

BALTOK RECORDS BRS-912

モーツアルト SONATA K.570

SUITE K.399

FANTASY AND FUGUE K.394

Ralph Kirkpatrick (ピアノ)

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

BALTOK RECORDS 盤ということで、録音特性は不明であり、ZANDEN Model 120 の条件を替えながら聴いて行きます。

BALTOK RECORDS 盤も Ralph Kirkpatrick も初めてということで LINN LP-12 によりじっくり聴いていきます。

モノラル盤であり、特別なピアノを使用していて、音色も変わっているので ZANDEN Model 120 の条件設定に手間取りましたが、どうやら Columbia、逆相、第4時定数 Low が一番しっくりくるような感じです。

特別なピアノと述べましたが、モーツアルトの18世紀末の作品の演奏のために、18世紀末のピアノを模して製作されたピアノが使用されており、ピアノフォルテに

似たような音がしており、ダイナミックレンジもピアノフォルテよりありますが、近代ピアノほど大きくない感じです。

そういったピアノの特性を活かした演奏ですので、素朴でノスタルジックなモーツァルトの雰囲気が味わえます。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、18 世紀末のピアノを模して製作されたピアノによる演奏の雰囲気が味わえました。

以上